

# 北の道先案内人 とがし遊魚がいく!

# 鮎温泉食の旅

## 八郎瀧今昔物語

『へら鮎釣りへの道』は  
八郎瀧からはじまった

「月日は百代の過客にして ゆき  
かう人も また 旅人なり」

確か、松尾芭蕉の句でしたよね  
一年の早いこと早いこと、これも  
年(58歳)をとったせいなのか  
な? 30代から40代までは「ウー  
ン、40になったのか」と、40代か  
ら50代までは「アレエ、もう50歳  
かい」となり、50すぎてからは早  
いのなんのなんの、「もうすぐ60歳  
になっちゃうね」。

日本一広大な八郎瀧の湖畔で産  
声をあげ、物心ついたころには  
竹竿(一本もの3メートルくらい  
かな)担いで八郎瀧水系で遊んだ  
のが、今でも鮮明に覚えている。

現在では、八郎瀧は干拓事業に  
より当時の面影はまったくな  
く、広大な田園風景となったのが「大  
瀧村」だ。干拓以前は、八郎瀧へ  
注ぐ主流に横堤が数箇の目のよう  
にあり、それはそれは、釣り人に  
とっては最高の釣り場だった。

私が本格的に八郎瀧の釣りに入  
門したのが20代前半で、「鯉釣り」  
が出発であった。その頃のエサは  
ジャガイモだったので、時折、真  
鮎とはぜんぜん違う真っ白な鯛の  
ような鮎が釣れてきて、その時の  
「シロツケの鮎」とよんでいたの

が、源五郎鮎だったのだらう。

ある日、異様な格好して1本の  
サオで望遠鏡のようなものを覗い  
てる釣り人にくぎつけになる!  
自分は、一朝に1匹の鯉を釣るの  
に「苦労しているのに、その釣り  
師には、真鮎に鯉にシロツケの鮎  
がおもしろいように釣れ、真鮎と  
鯉はすぐに放し、そのシロツケの  
鮎のみをピク(今で言うフラス)  
に入れてるのも不思議で、声も掛  
けれずに毎朝1週間はピツシリと  
その釣り人を見学してたところ、  
「釣りに興味があるのか」と先方よ  
り声をかけられたのが「へら鮎釣  
りへの道」だった。さうそくへら  
道具一式を揃えて、毎朝の「八郎  
瀧参り」がはじまったのである。

八郎瀧での豪快な釣り  
いつかまた、できないのかなあ

干拓後で、以前の情緒あふれる  
風情ではなかったが、水解けと  
もに浅場から釣れはじまり、本湖  
での豪快な釣り(乗っ込み前に、  
乗っ込み期の水路での釣り、その  
後また本湖での釣り・5・9月ま  
での有名ポイント「五明光」での  
ボート釣りに、夏場の蘆葦の穴釣  
り、晩秋の本湖での荒食いと、10  
月いっぱいには楽しめたのが、今で  
は夢物語である。

現在では「乗っ込み期」でもな

かなか釣れなくなり、かつての名  
ポイントも、岸边は葦・ガマ・ア  
カシヤや雑木が生い茂り面影もな  
くなっており。

今、社会を無事卒業してる釣り  
人の嘆き節「俺達が生きてる間に  
に、いつかまた八郎瀧で豪快な釣  
りができないのかなあ」という言  
葉がここ最近よく聞かれる。当地  
の「へら鮎釣り」も様変わりをし  
てしまい、放流される湖沼以外  
での釣りは皆無となってしまっ  
た。

10年前だったと思うが、「近い将  
来関東の管理釣り場へ行くことに  
なるよ」と言っていたのが現実と  
なってしまい、10月に大型バスを  
チャーターして、羽生吉沼・椎の  
木湖遠征をしたのである。

ズグリムクリが  
強い引き味で楽しませてくれる

我が県行政では外来魚駆除を実  
施しているが、その現場を何度も  
見物させてもらったのだが、鯉も  
鮎も尺以下の魚類は見かけない。  
放流された外来魚には何の罪もな  
いの、処分されるのは気の毒な  
思いもするが、日本古来の魚類が  
絶えていくのも悲しがりなのだ。  
童謡に、「メダカの学校は川の中  
そつとそつとみてらんらん」春  
になればすがつこも解けてど



今年の放流魚は、700gクラス。強い引き味で楽しませてくれる。写真右は今年の放流風景。



『ザ・遊魚池』は、開園して15年、定期的な放流のおかげで、いまでは、寒い秋田の冬でもヘラブナ釣りができるのだ。

じよつ子だの鮎つ子だの……」があ  
るが、「メダカって? どじょうつ  
子って? 鮎つ子ってなあに?」  
ということになって欲しくない  
と考えてるのは自分だけかな?

当店では、冬場の対策としてミ  
ニミニ釣り堀『ザ・遊魚池』を  
経営しているが、その上流に小さな  
野池があり、そこへメダカやタナ  
ゴ・クチボソを放流している。  
『ザ・遊魚池』は昨年、関東の  
養殖業者から仕入れたヘラブナを  
放流しており、特に今年は700  
g前後の大型が放流され、この養  
殖場の特徴である体高の高いズン  
グリムクリの引き味の強いへら  
鮎が楽しませてくれている。

水温が日増しに下がりはじめ、  
ウキの動きも盛期のようにはいか  
ないが、雪舞う中での一枚は感動  
できると自負している。

### 見処・食い処 温泉オタク遊魚イチ押し温泉2選

今や全国的に有名になったが、乳頭温  
泉郷でも最も古く、藩政時代の面影残す  
ランプの宿『鶴の湯温泉』。乳白色の露  
天風呂で「雪舞う中で雪見酒」は酒造に  
とっては最高でしょうね。  
また、子宝の湯と呼ばれる4つの源泉  
が楽しめます。すべて自家温泉ですよ。  
この名物料理は「山の芋鍋」だ。ただ  
し、近郊に釣り場がないのが欠点かな。  
冬期間(11~4月下旬)は休業ですが、  
遊魚温泉博士が一番とお薦め温泉は、栗  
駒国立公園内にあり、大浴場・露天風呂  
は、「標高1126m」から、眼下にはプナ

林の山々を望み、晴れた日には鳥海山の  
勇姿が眺望できます。初夏の新緑と秋の  
紅葉は天下の絶景なり。

近郊の釣り場には「釣りキチ三平」で  
有名な青鮎の棲息する「貝沼」とコバル  
トブルーの水色な「つぼ沼」があります。

今、秋田では、雷がなり、海が荒れ  
ると産卵のために接岸する、冬の使者、  
八タハタ流の最盛期だ。  
冬の風物詩、キリタンが鯛・ダマコ鍋・  
しょつづる鍋(八タハタ)が家庭の食卓  
を賑わしています。「あったまりますよ」  
食べたい方はご連絡ください。